

長岡市・栃尾市合併協議会、長岡市・与板町合併協議会合同 第1回新市建設計画策定小委員会次第

日時：平成17年1月28日（金）
午後5時30分から
場所：長岡市役所第3委員会室

1 開 会

2 委員紹介

3 委員長・副委員長選出

4 新市建設計画策定にあたって

（1） 新市建設計画策定小委員会の役割について

（2） 新市建設計画策定の考え方と手法について

5 新市建設計画について

6 意見交換

長岡市・栃尾市合併による将来構想実現に向けての新市のまちづくりについて
長岡市・与板町合併による将来構想実現に向けての新市のまちづくりについて

7 その他

8 閉 会

長岡市・与板町合併協議会
新市建設計画策定小委員会委員名簿

	区分	役職名	氏名	備考
長岡市	行政	長岡市助役	二澤和夫	
	議会	長岡市議会 市町村合併調査研究委員会委員長	大地正幸	
与板町	行政	与板町助役	佐々木一昭	
	議会	与板町議会 市町村合併問題特別委員会委員長	石丸誠亮	
学識経験者		長岡造形大学理事長	豊口協	
		長岡大学助教授	鯉江康正	
		新潟県長岡地域振興局長	阿部誠一	

新市建設計画策定小委員会の役割について

1.小委員会の位置付け

小委員会は、新市全体のまちづくりの視点から、新市建設計画に係わる検討・審議を行い計画案を策定する機関として位置付ける。

2.小委員会の内容

基本的には、各市町や分科会等での検討を経て事務局から提出される建設計画の内容について審議を行い、計画案としてまとめていく。
(新市全体の施策や事業のアイデアなどについて創造的な意見も含めた議論も行なう。)

3.検討・審議のポイント

事業検討段階	▶	資料内容の質疑に留まらない、新市誕生後10年間の新市建設に向け、新市全体で行なっていくべき施策や事業のアイデアについての創造的・発展的な意見も含めた議論。
施策体系整理段階	▶	全体的な内容審議を主として議論を進めていただき、計画案としてとりまとめ、協議会に提案する。

【議論のポイント】

新市将来構想の実現に向けた施策の方向性についての議論
新ながおか市全体の視点による事業・施策の議論

4.検討・審議のテーマと開催タイミング

小委員会	主な検討・審議のテーマ
第1回	<ul style="list-style-type: none"> 小委員会の役割について 策定の考え方と手法について
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 「与板地域の夢（新市将来構想の概要）」について 新市建設の施策について
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 建設計画（案）について
新潟県との事前協議	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> 建設計画書修正案について

長岡市・与板町合併協議会小委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、長岡市・与板町合併協議会規約（以下「規約」という。）第11条第2項の規定に基づき、長岡市・与板町合併協議会（以下「協議会」という。）に置かれる小委員会（以下「小委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 小委員会は、協議会から付託された事項について、調査、審議等を行うものとする。

(組織)

第3条 小委員会は、協議会の会長（以下「会長」という。）が指名する者（以下「小委員会委員」という。）をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 小委員会に、委員長1人及び副委員長1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、小委員会委員の互選によりこれを選出する。
- 3 委員長は、小委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第5条 小委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員長は、会議の議長となる。
- 3 会議は、小委員会委員の半数以上の出席がなければ、これを開くことができない。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、小委員会委員以外の者を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

(報告)

第6条 委員長は、小委員会における審議の経過及び結果について、協議会に報告しなければならない。

(運営)

第7条 小委員会の運営に関しては、長岡市・与板町合併協議会の会議の運営に関する
規程に定めるところによる。

(庶務)

第8条 小委員会の庶務は、規約第14条第1項に規定する協議会の事務局において処理
する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか、小委員会に関し必要な事項は、会長が別に定め
る。

附 則

この規程は、平成17年1月26日から施行する。

長岡市・与板町合併協議会 新市建設計画策定小委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 新市建設計画案を策定するため、長岡市・与板町合併協議会規約(以下「規約」という。)第11条第1項の規定に基づき、長岡市・与板町合併協議会(以下「協議会」という。)に新市建設計画策定小委員会(以下「小委員会」という。)を設置することとし、その組織及び運営に関しては、同条第2項の規定に基づく長岡市・与板町合併協議会小委員会規程(以下「規程」という。)に定めるもののほか、規程第9条の規定に基づき、この要綱に定めるところによるものとする。

(所掌事務)

第2条 小委員会は、規約第3条第2号に定める事務に関し、必要な調査、審議等を行い、新市建設計画案を策定するものとする。

(組織)

第3条 小委員会は、次に掲げる委員7人をもって組織する。

- (1) 規約第7条第1項第2号に規定する両市町の助役又は当該市町の長が指定する当該市町の職員 各1人
- (2) 規約第7条第1項第3号若しくは第4号に規定する両市町の議会の議長若しくは議員又は同項第5号に規定する両市町の住民の代表のうちから両市町において互選により選出された者 各1人
- (3) 規約第7条第1項第6号に規定する学識経験を有する者 3人

(報償費及び費用弁償)

第4条 小委員会の委員及び規程第5条第4項の規定により委員長が出席を求めた者の報償費及び費用弁償は、協議会の委員に準ずる。

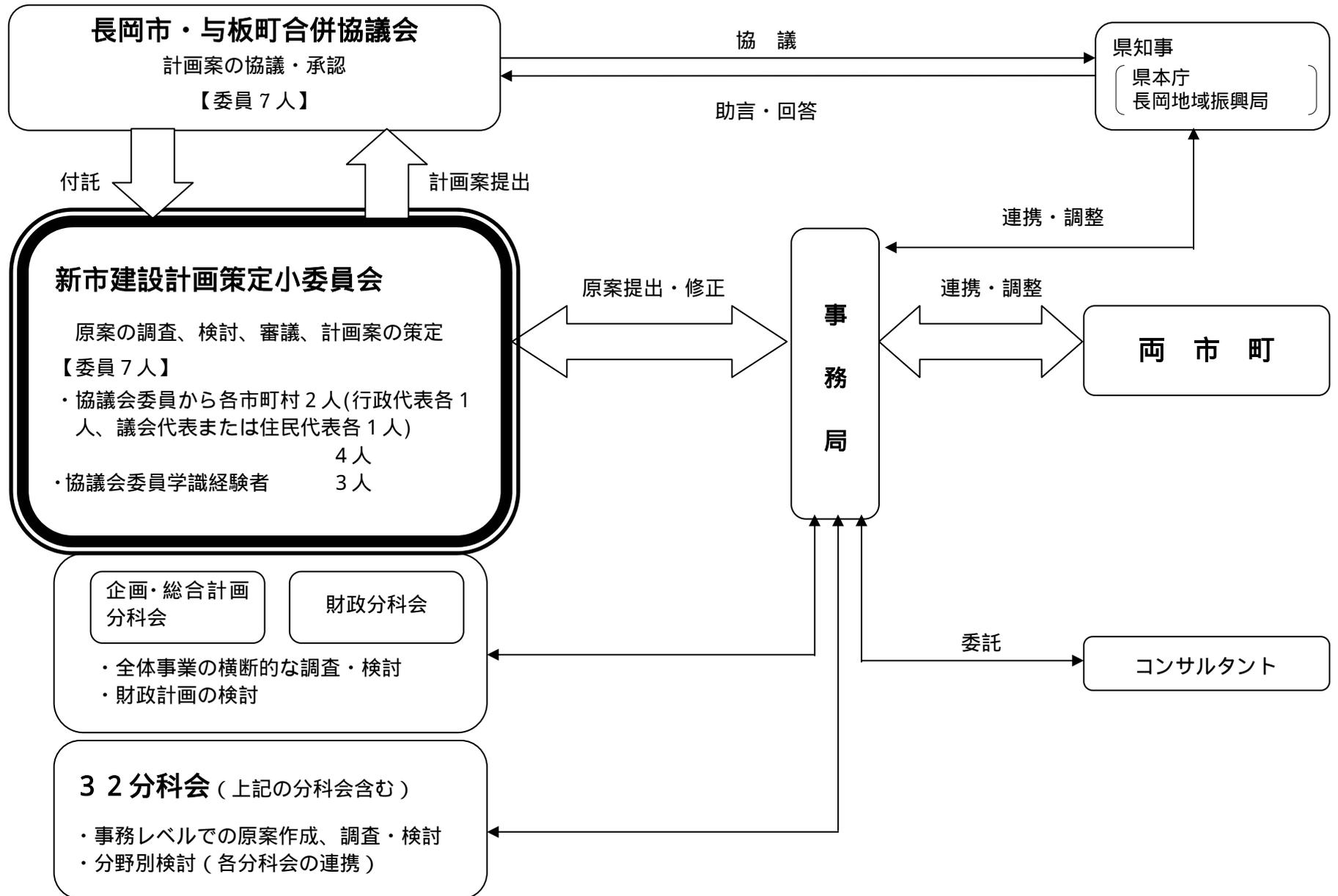
(委任)

第5条 この要綱に定めるもののほか、小委員会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年1月26日から施行する。

新市建設計画策定体制イメージ図



新市建設計画策定方針

1 計画の趣旨

新市建設計画は、「市町村の合併の特例に関する法律」第5条に基づいて作成するもので、長岡市と与板町との合併による一体性の確立・均衡ある発展を図るものとする。

2 計画策定の基本方針

- (1) 新市建設計画策定に当たっては、「長岡地域新市将来構想」及び「長岡地域新市建設計画」を基本とする。
- (2) 新市建設計画の策定は、「長岡地域新市建設計画」に長岡市と与板町との合併に必要な内容を追記することにより行うこととし、長岡地域合併協議会で策定した内容は、変更しないものとする。

3 計画対象地域

長岡市と与板町の全区域

4 長岡市と与板町との合併において追加する主な内容

- (1) 新市建設の基本方針
与板地域の夢（地域別整備・活動方針及び活動・展開）
- (2) 新市建設の施策
長岡市と与板町との新市建設に係る「新市による根幹事業」と「新潟県の根幹事業」
- (3) 財政計画
新市建設のための歳入・歳出の計画

5 策定手順

- (1) 「長岡地域新市将来構想」に基づき、与板地域の整備・活動方針を策定する。
- (2) 「長岡地域新市建設計画」に基づき、長岡市と与板町において登載候補事業を検討し、関係分科会等で整理する。それらをもとに小委員会で審議して素案を作成し、協議会における協議を経て計画（案）を作成する。
- (3) 計画（案）は、県知事に対する事前協議及び正式協議を経て、新市建設計画として決定する。

6 構成

長岡地域新市建設計画による。

第1章 新市の概況からみた可能性

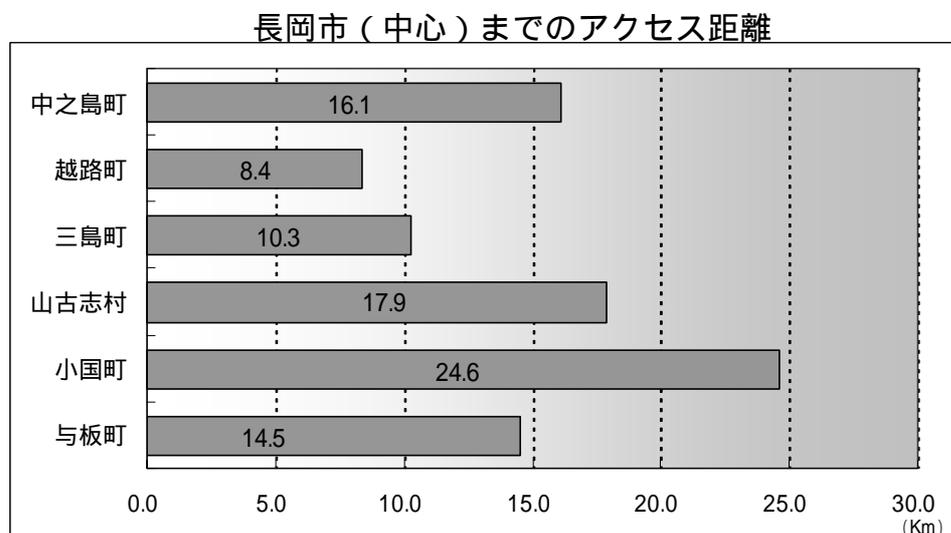
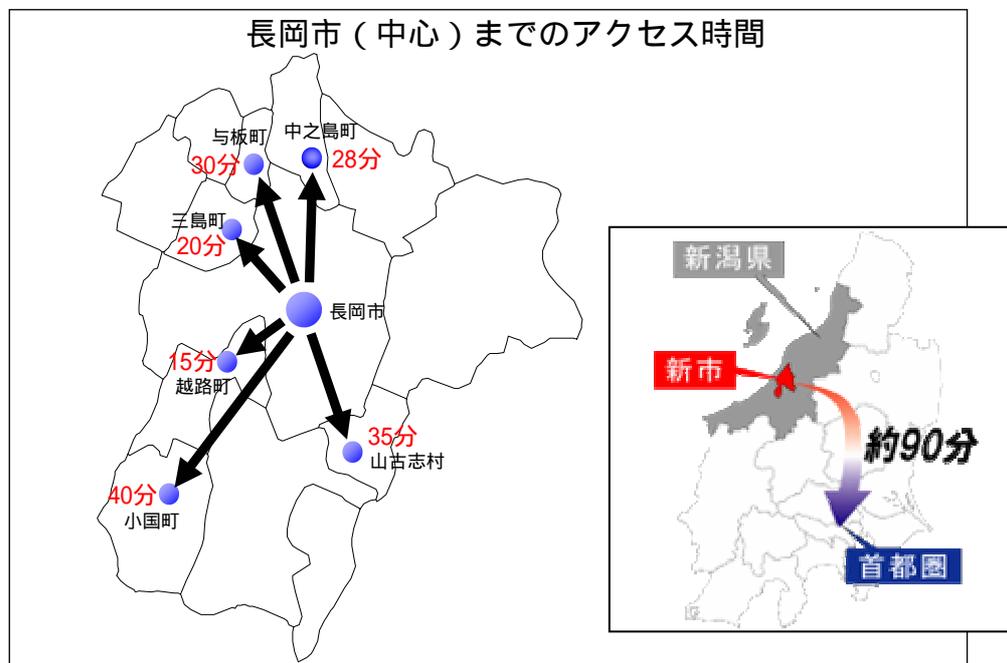
ここでは、新市の現状を概観しながら、新市の持っている特性や今後の可能性についての検討考察を行いました。

1. 新市の概況

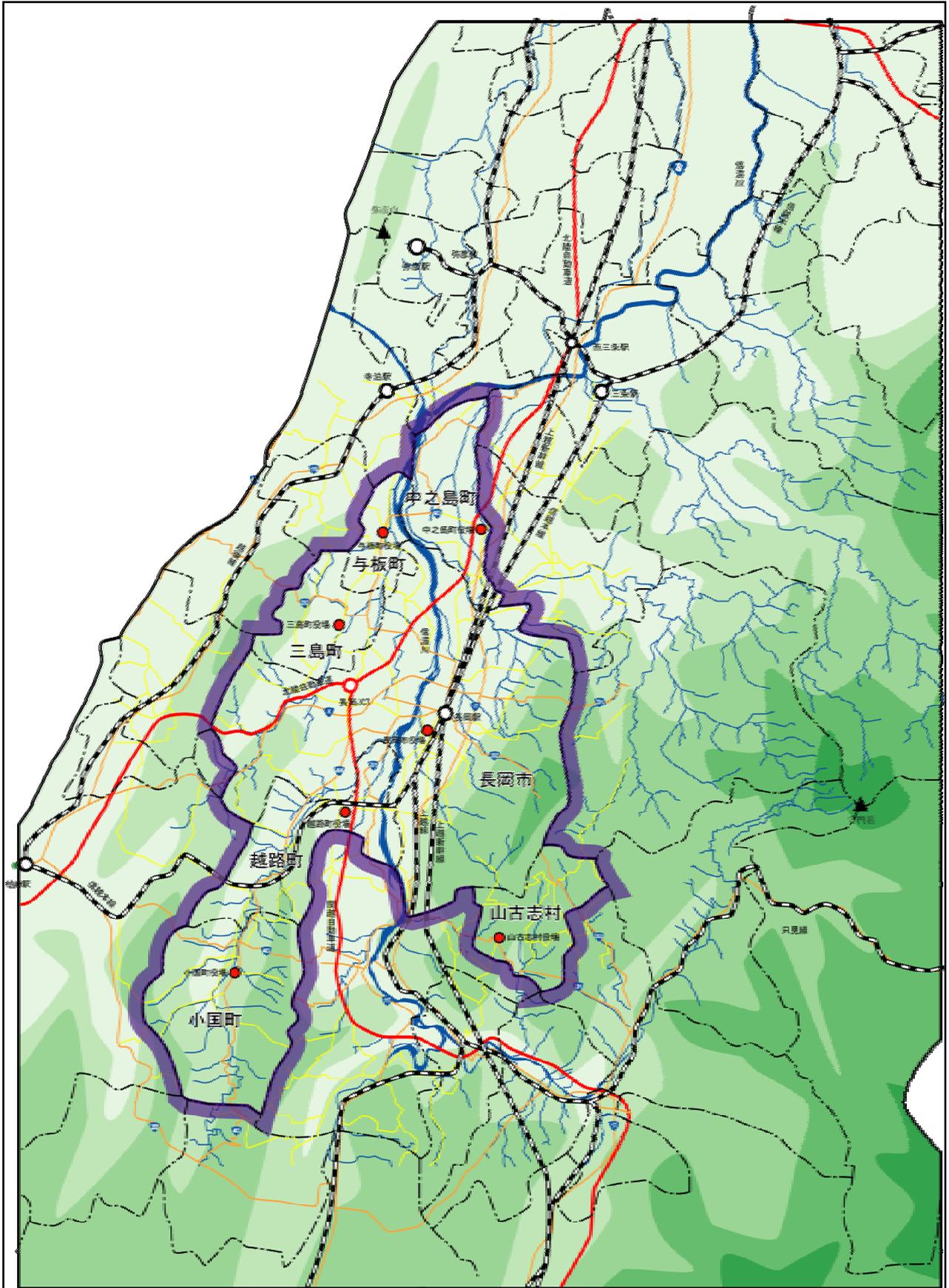
(1) 位置・地勢

各地域から新市の中心部までのアクセス距離をみると、約 25km 圏域となっており、アクセス時間では各地域が 40 分圏域に含まれます。

モータリゼーションの進展に加え、各地域のアクセス性の高さを活かし、人々の暮らしや地域交流の広域化に対応したまちづくりを一体的に進めていくことができます。



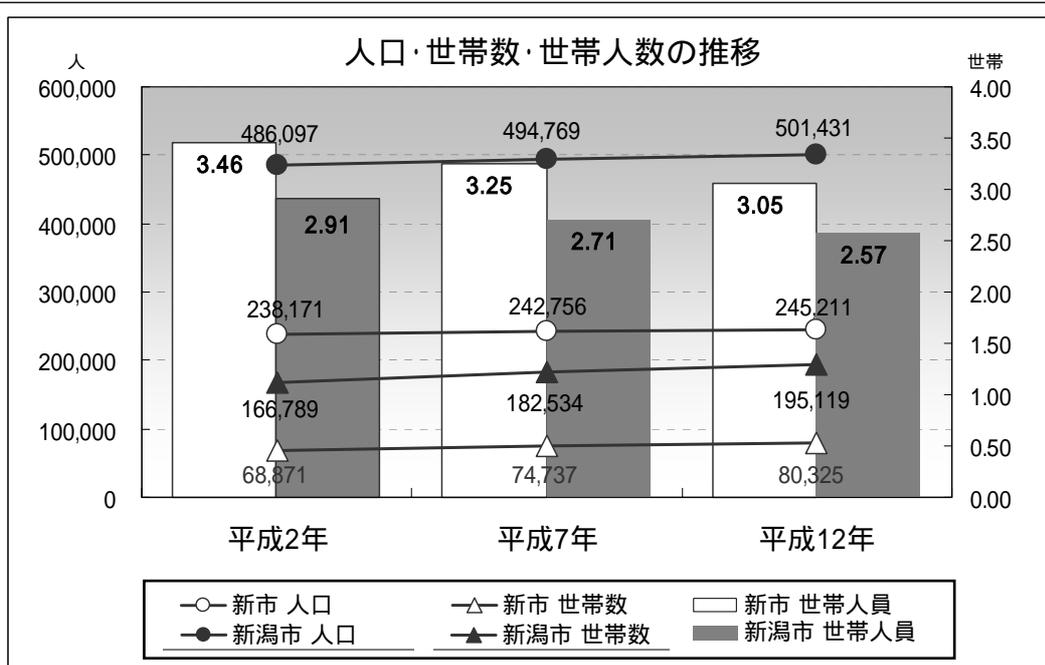
新市全体



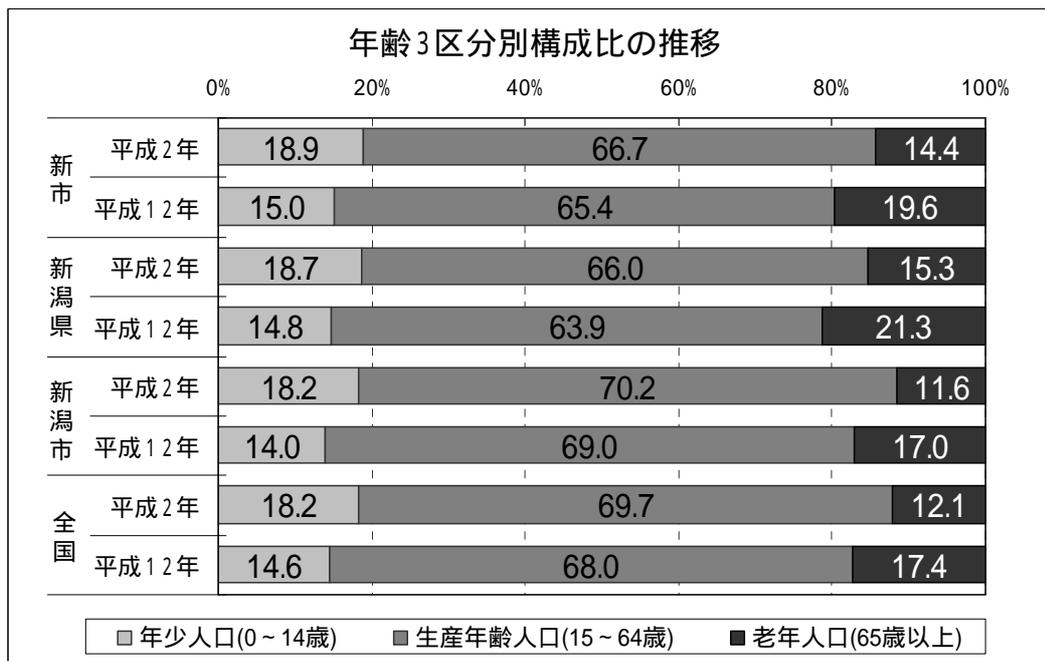
(2) 人口・世帯

新市の人口は、平成12年の時点で、**245,211**人であり、新潟県総人口の約1割を占めています。

新市の人口の推移は、緩やかに上昇しています。また、年少人口の割合が比較的多くなっています。



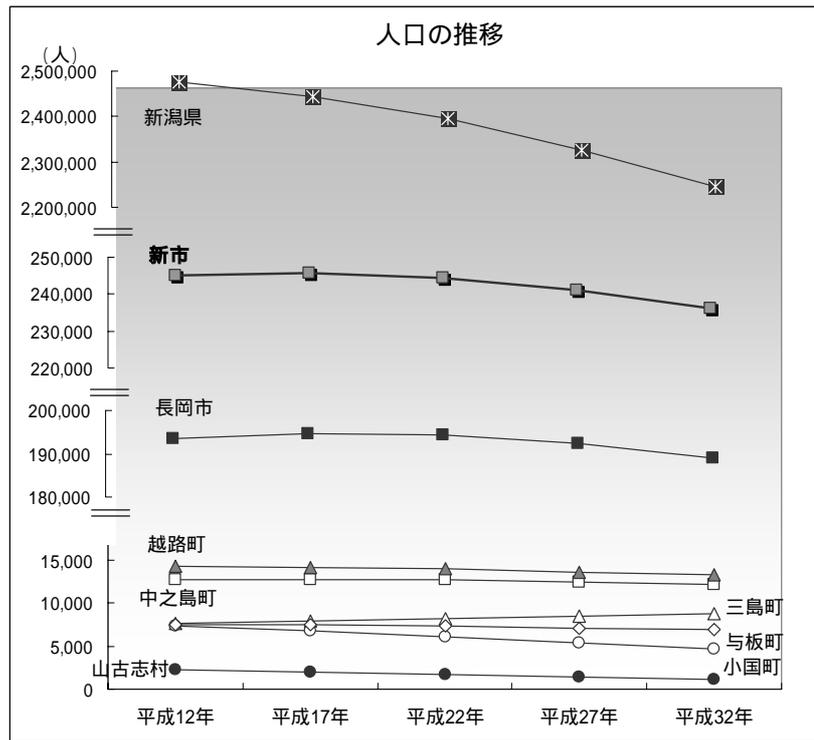
資料：国勢調査



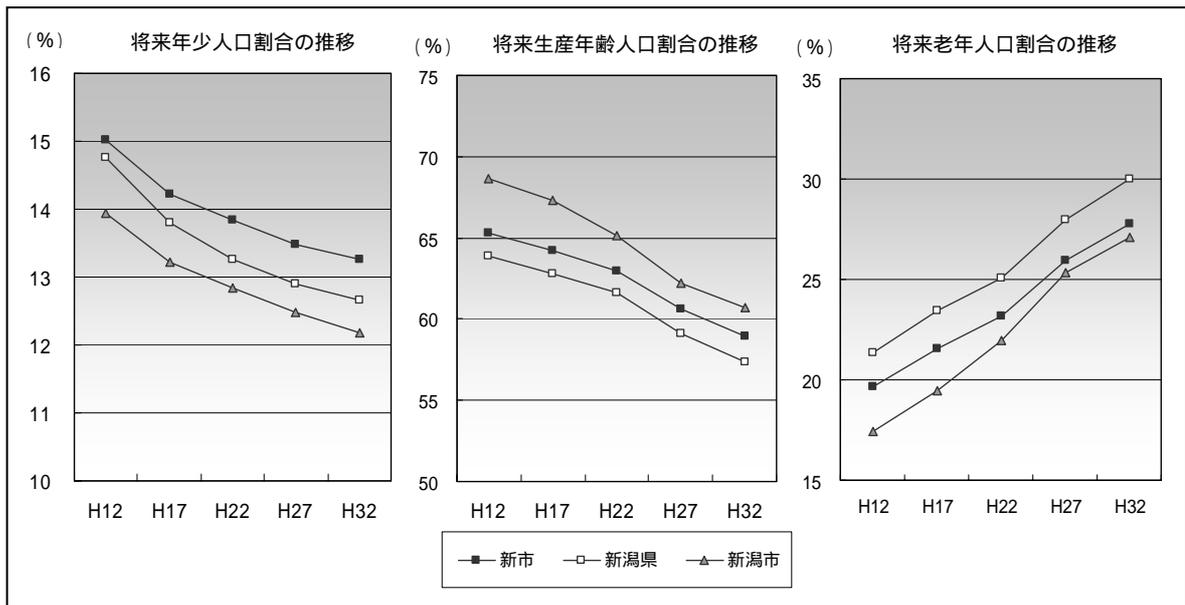
資料：国勢調査

(3) 人口動態の見通し

人口動態の見通しでは、新市は平成17年から緩やかに減少していくものとして推計されています。
 年齢区分人口割合は、新潟県・新潟市とほぼ同様に、年少人口・生産年齢人口は減少、老年人口は増加していくものと予測されます。



資料：平成14年3月 市町村の将来人口（日本統計協会）

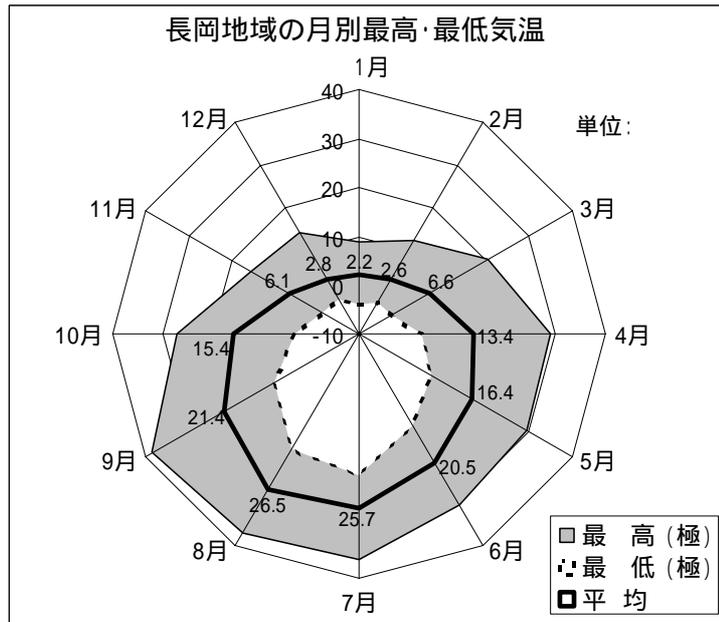


資料：平成14年3月 市町村の将来人口（日本統計協会）

(4) 気象

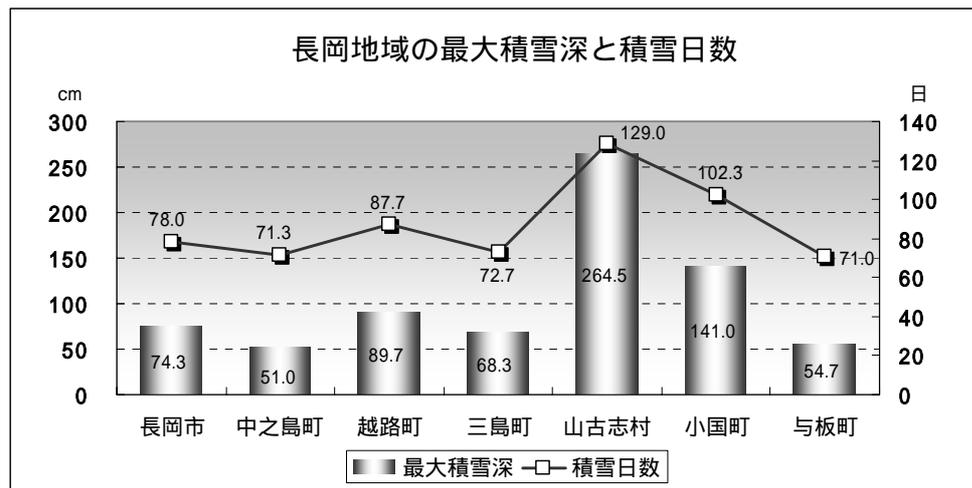
新市の夏期の月平均気温は 25 度前後で、冬期には積雪の多い地域と少ない地域があります。

積雪日数は **71** 日から 129 日となっており、こうした気象上の特徴を活かして、**冬季間の観光活動を提案することのできる地域**です。



資料:新潟地方気象台

平均気温は平成 14 年度の毎正時(24 回)の観測値を平均したものの



資料:新潟地方気象台

中之島町・三島町役場調べ

積雪深、積雪日数ともに平成 11 年度初雪時から平成 14 年度 4 月最終積雪時までの平均値
積雪日数は、観測値が1cm 以上の日数

冬期間の晴天率(平成 15 年度実績)

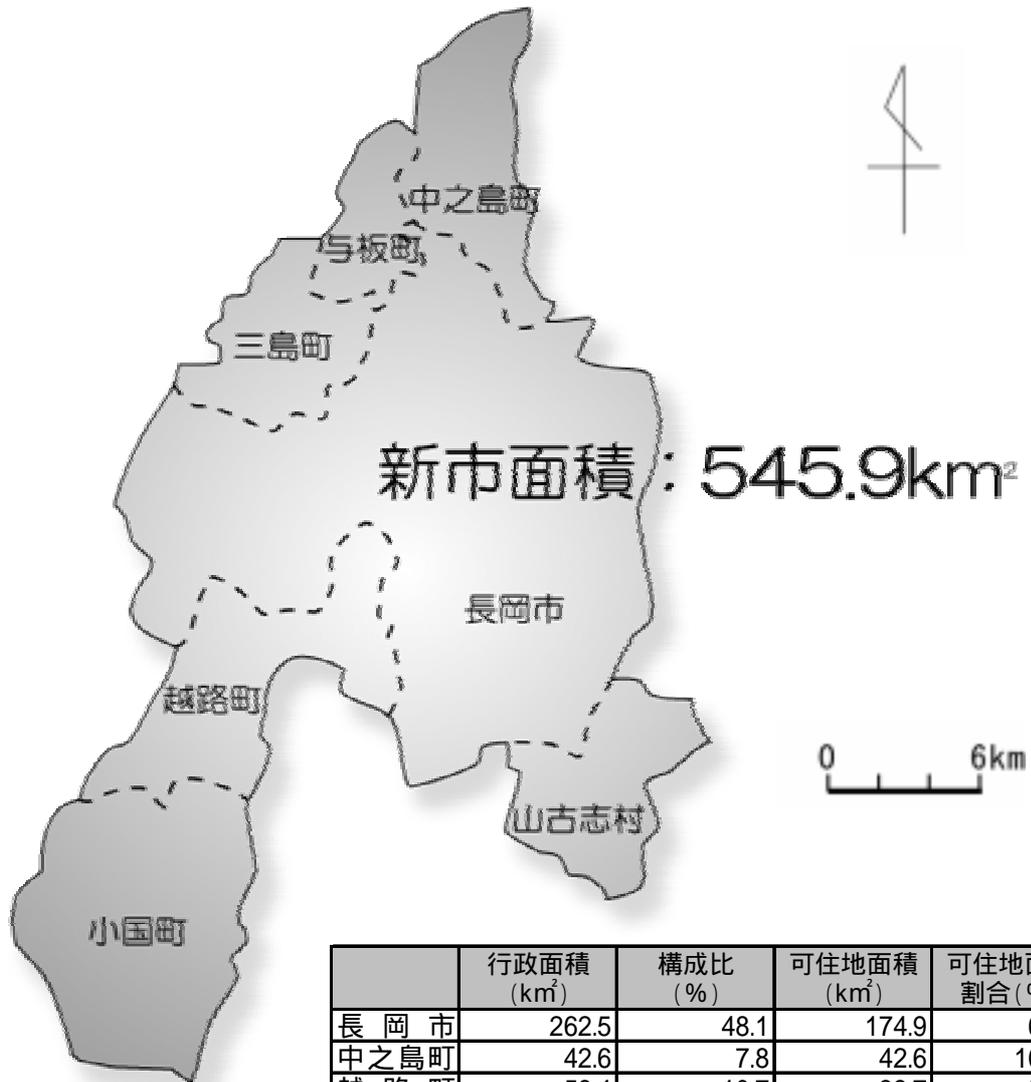
晴天率	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平均
	-	-	23%	42%	30%	-	-	32%

資料:長岡市営スキー場調べ

(5) 面積

新市における行政面積は **545.9** km² で、新潟県全体の約 4 % を占めます。

新市は、可住地面積の割合が新潟県・全国より高く約 6 割となっており、平地部の割合が高いといえます。



	行政面積 (km ²)	構成比 (%)	可住地面積 (km ²)	可住地面積 割合 (%)
長岡市	262.5	48.1	174.9	66.6
中之島町	42.6	7.8	42.6	100.0
越路町	58.4	10.7	33.7	57.7
三島町	36.5	6.7	14.3	39.2
山古志村	39.8	7.3	15.6	39.2
小国町	86.1	15.8	29.4	34.1
与板町	20.0	3.6	12.4	61.9
新市計	545.9	100.0	322.9	59.2
新潟県	12,582.4		4,481.3	35.6
全国	377,863.7		125,162.3	33.1

資料：平成 13 年 新潟県統計年鑑

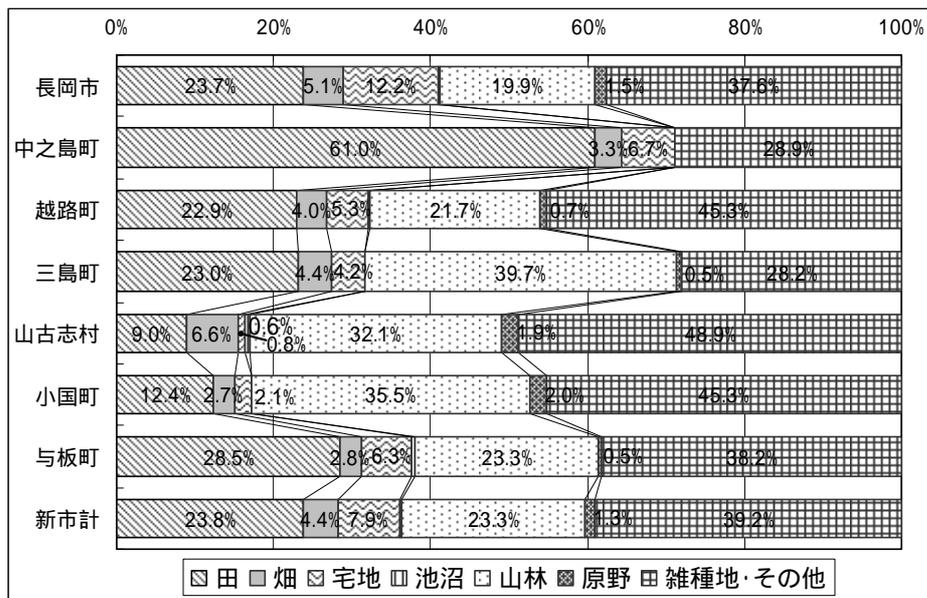
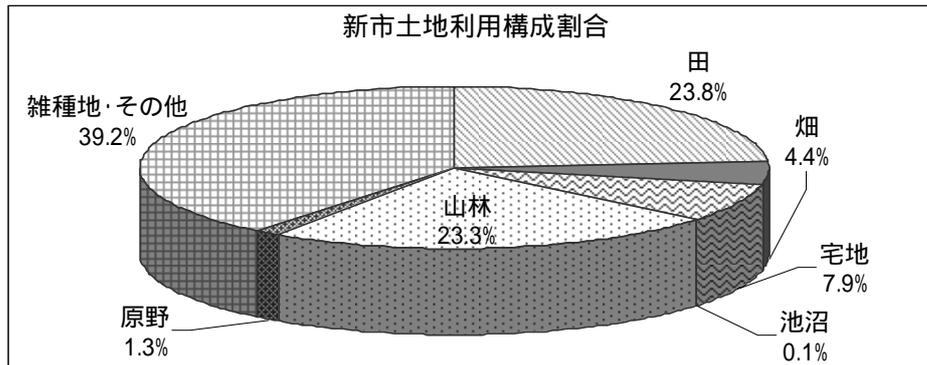
平成 15 年 統計でみる市町村のすがた

地域経済総覧 2003 (国土地理院)

可住地面積は、行政面積より林野・主要湖沼面積を差し引いた面積

(6) 土地利用

新市の土地利用の現況をみると、田が全体の23.8%、山林が23.3%を占めており、日本の原風景が残された、自然豊かな地域であることがわかります。
各地域ごとの土地利用に特色があり、さまざまな景観を楽しむことができることから、地域特性を活かしたまちづくりを進めていくことができます。



土地の利用状況

市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	池沼 (ha)	山林 (ha)	原野 (ha)	雑種地・その他 (ha)	総数 (ha)
長岡市	6,230.3	1,334.3	3,197.9	29.8	5,211.2	382.0	9,859.5	26,245.0
中之島町	2,594.9	142.5	285.6	0.1	0.0	2.4	1,229.5	4,255.0
越路町	1,336.8	232.7	308.0	8.5	1,266.9	42.5	2,648.6	5,844.0
三島町	839.9	159.1	153.9	2.3	1,447.8	16.6	1,027.4	3,647.0
山古志村	359.5	261.9	33.4	25.8	1,278.8	77.0	1,946.6	3,983.0
小国町	1,064.7	234.6	183.9	2.7	3,056.7	171.2	3,901.2	8,615.0
与板町	571.1	55.2	126.2	8.0	468.1	9.9	766.5	2,005.0
新市計	12,997.2	2,420.3	4,288.9	77.2	12,729.5	701.6	21,379.3	54,594.0

資料：平成15年 新潟県統計データハンドブック

雑種地・その他の内容について

雑種地：ゴルフ場、遊園地、運動場、野球場、競馬場、他それに類する区分

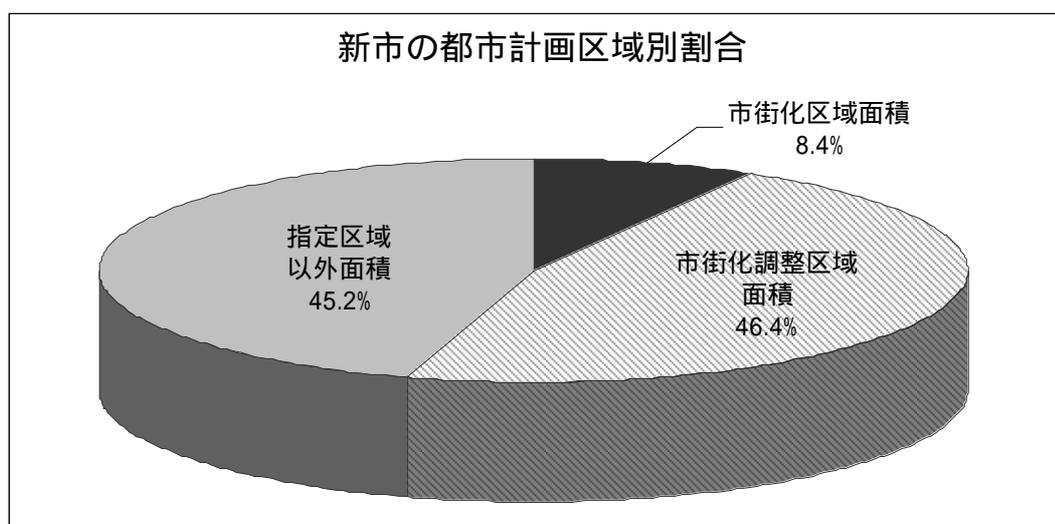
その他：墓地、境内、運河、水道用地、ため池、保安林、堤、公園、公衆用道路

(7) 都市計画区域

新市における都市計画区域面積は、行政面積の **54.8%** にあたり、用途地域面積、市街化区域面積ともに **8.4%** となっています。

人口集中地区面積は、行政面積のうち **4.0%** にあたります。

市町村名	行政面積	都市計画区域面積	都市計画区域面積割合(%)	用途地域面積	用途地域面積割合(%)	市街化区域面積	市街化区域面積割合(%)	市街化調整区域面積	人口集中地区面積	人口集中地区面積割合(%)	指定区域以外面積
長岡市	26,245	22,000	83.8	3,947	15.0	3,937	15.0	18,063	2,190	8.0	4,245
中之島町	4,255	2,700	63.5	184	4.3	184	4.3	2,516	-	-	1,555
越路町	5,844	1,900	32.5	159	2.7	159	2.7	1,741	-	-	3,944
三島町	3,647	1,700	46.6	121	3.3	121	3.3	1,579	-	-	1,947
山古志村	3,983	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,983
小国町	8,615	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8,615
与板町	2,005	1,600	79.8	191	9.5	191	9.5	1,409	-	-	405
新市計	54,594	29,900	54.8	4,602	8.4	4,592	8.4	25,308	2,190	4.0	24,694



資料：平成15年新潟県の都市計画

2. 新市の競争力

新市の都市競争力：
新しい発想力やチャンスを支援する力

地域特性から生まれた匠の技と、新しい試みへの積極性から、新市独自の多様な力を発揮します

立地を活かした積極的な活動が行われています

新市における出荷額の推移では、一般的には、減少しているものの、新潟市と比べると減少率は小さく、全国的な低迷の中で、企業努力が図られ健闘しているといえます。

特に、三島町、越路町、中之島町では、新潟県全般で減少する中において、出荷額が伸びています。事業所数の減少は、製造業における物流拠点の統廃合や工場生産の効率化等、近年の企業活動動向によるもので、一概に産業の不振を表すものではありません。

新市の製造業は多様性が高く、新たな産業分野への取り組みも活発に行われています

新市製造業の特徴としては、精密機械、一般機械、鉄鋼、家具・装備品、衣服などの多分野で特化状況が高く、多様性の高さが見て取れます。

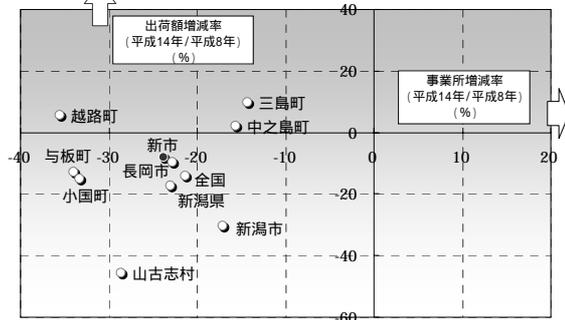
また、県内における従業者数のシェア（割合）が高く、雇用の受け皿が大きいことが分かります。

「長岡産業デザイン研究会」などの異業種交流会では、新製品の開発・研究に取り組んでいます。多様化するニーズへの対応や新しい企業経営に向けた活動が、積極的に行われています。

「長岡産業デザイン研究会」の活動風景

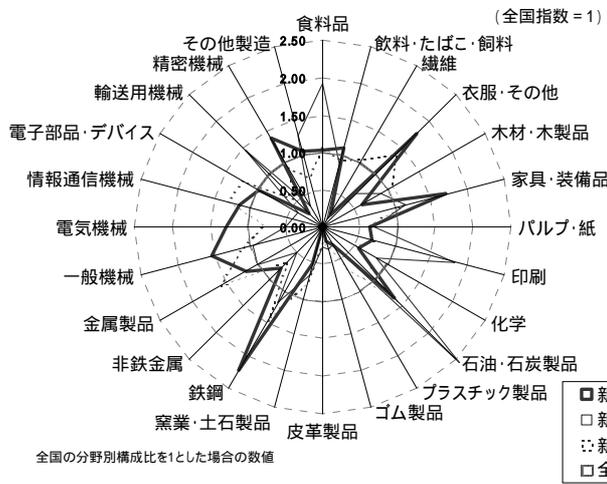


各地域の産業の成長



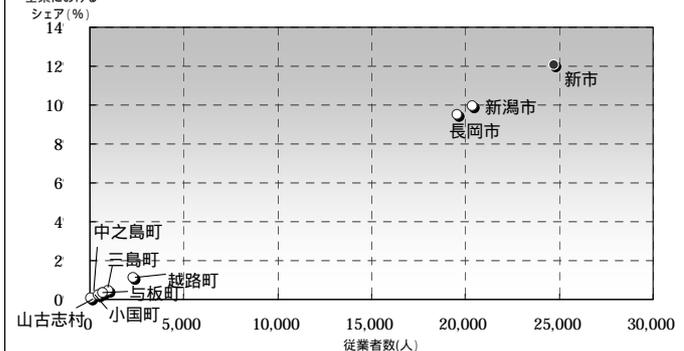
資料：平成14年 工業統計

産業中分類別・事業所数特化係数



資料：平成14年 工業統計

従業者×全県におけるシェア



資料：平成14年 工業統計

新市の都市競争力：
人づくり・まちづくりから
都市の魅力を高める力

地域の暮らしの視点からの発想は、
新市の人づくり・まちづくりにつな
がり、まちの魅力を高めます

にぎわいのある魅力的なまちづくり
につながる、人づくりを進めています

中心市街地では、商店経営を目指す
意欲的な商業者の卵たちが、チャレン
ジショップ「リード・ブロー」で、周辺
の先輩商店主からのアドバイスのもと、
経営のノウハウを学びながら独立
開業を目指しています。チャレンジシ
ョップを巣立った人たちによる個性
的で魅力あるお店がまちなかに新しい
風を吹き込んでいます。

**新市の商業ポテンシャルは、非常に
高い可能性を持っています**

新市の小売業1店舗当たり販売額
及び小売吸引力は、全県において高い
水準にあります。合併による一体的整
備や商圈の広域化、小売吸引力の強化
等、現在でも高い吸引力を示している
長岡地域では、さらに求心力が高まる
ことが期待されます。

また、販売額構成比では、衣服や身
の回り品といった身近な商品の割合
が全国の平均を上回っており、地域の
小売業の特徴が表れています。

小売吸引力とは、その地域が他の地域か
ら、どの程度購買力を吸引しているかを相
対的に示す係数で、

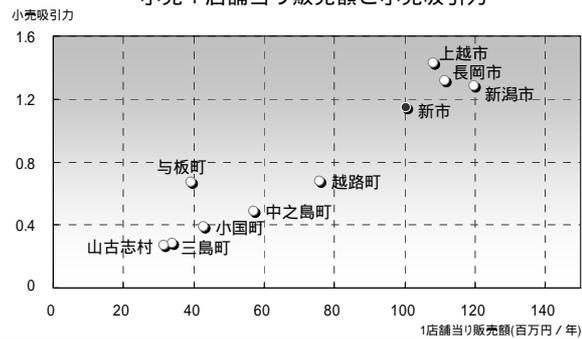
商業人口 > 行政人口の場合、1.0以上、
商業人口 < 行政人口の場合、1.0未満。

小売吸引力 = 市民1人当たりの販売額
/ 県民1人当たり販売額

中心市街地でのチャレンジショップ開店

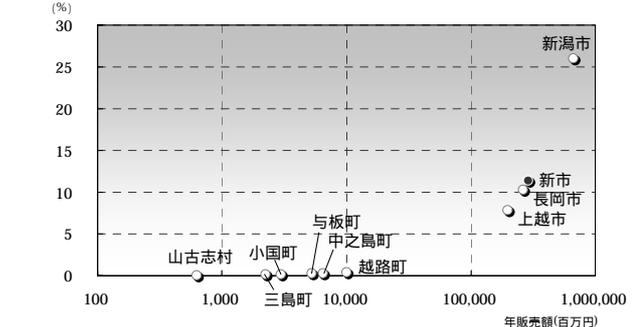


小売1店舗当たり販売額と小売吸引力



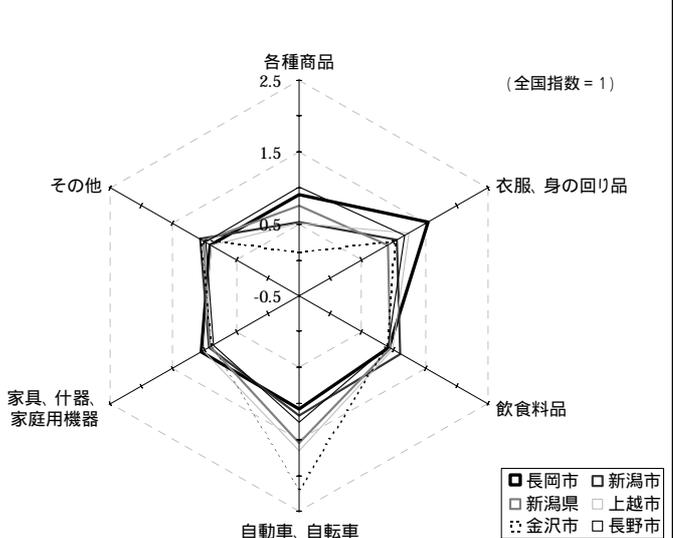
資料：平成14年 商業統計

年販売額(百万円) × 全県におけるシェア



資料：平成14年 商業統計

長岡周辺主要都市小売販売額特化係数



全国の分野別産業構成比を1とした場合の数値

資料：平成11年商業統計

新市の都市競争力：
地域の底力、米の生産力は
地域ブランドを後押しする力

新潟県を代表する農産物でもある米の生産力の高さは、ブランドを育てるパワーの源となっています

地域を代表する農産物は、人々の交流、観光や食品産業などの振興にもつながっています

自然豊かな田園景観や地域資源を活かしたグリーン・ツーリズム事業などにより、都市との交流が活発に行われ、体験交流による観光振興、農産物ブランド育成や食材PRにつながっています。

新市で収穫される米は、新潟県全体の消費量の約4ヵ月分です

新潟県を代表する農産物である米の粗生産額は新潟市を上回り、新市を構成する市町村のうち**6**町村で県平均を上回っています。

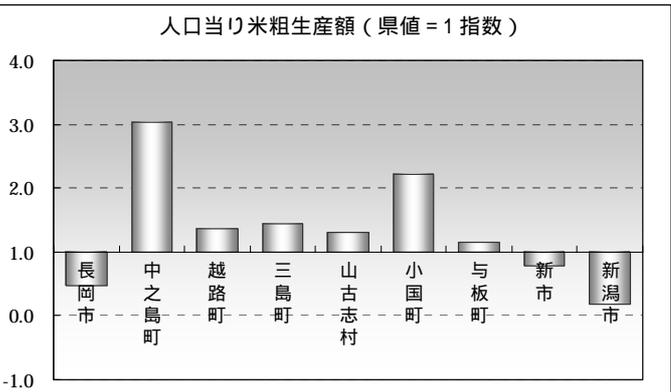
新市で収穫される米(水稻)の量は、1人当たりの年間消費量で換算すると、1年間に約**84**万人が消費する量に相当します。

米を中心とした産地力の高さは、地域の底力

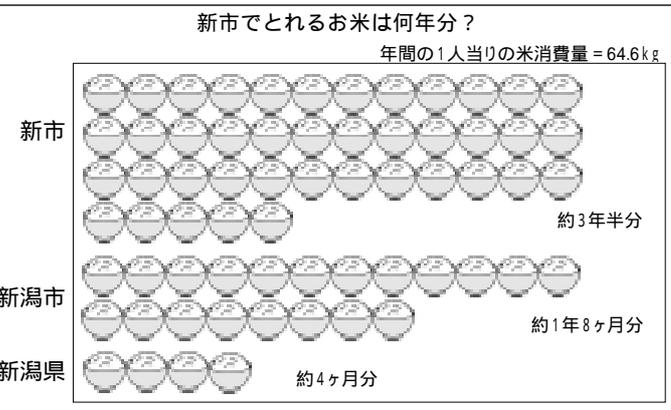
新市の農業粗生産額は、新潟市を上回り、1戸当たりの増減率でも新潟市を上回る地域があります。

また、一部のカントリーエレベーターでは、人工衛星によるタンパク含有量予測値をもとにサイロ別仕分けや、減農薬・減化学肥料の特別栽培米などの貯蔵ができ、米は地域の底力として、地域らしさ・ブランド力を育てていく力となっています。

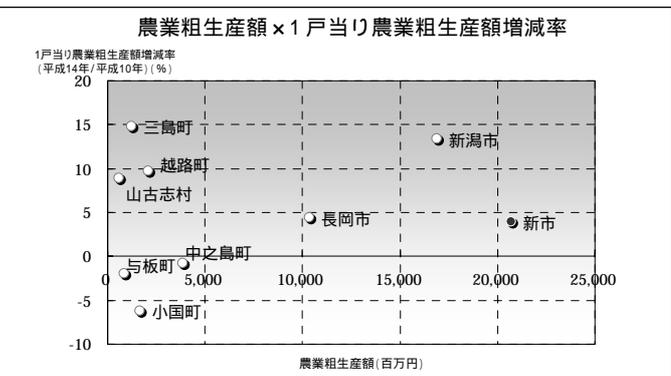
「グリーン・ツーリズム事業」で都市と農村の交流



資料：平成 14 年 農業産出額及び生産農業所得



資料：平成 15 年 水陸稲生産統計及び耕地面積統計 (北陸農政局新潟統計情報事務所) 米麦データブック 2002 (食糧庁)



資料：平成 10 年、平成 14 年農業産出額及び生産農業所得

3. 新市の暮らしやすさ

**新市の暮らしやすさ：
人と自然にやさしい環境を
地域で守り育てる力**

都市の利便性と自然の恵みを受けた新市は、暮らしやすさを伝えていくことにも注目しています

污水处理における環境に対するやさしさは全国・県平均以上、住民主導の取り組みも進んでいます

新市の環境に対するやさしさを見る指標の一つとして、污水处理施設整備率をみると、全国や新潟県の平均を大きく上回っています。

さらに、NPO 法人「地域循環ネットワーク」等では、学校や保育園などから出される調理残さをボランティアで収集し、家畜の飼料として再利用するリサイクル活動を行うなど、循環型社会の構築に向けての活動が住民主導で行われています。

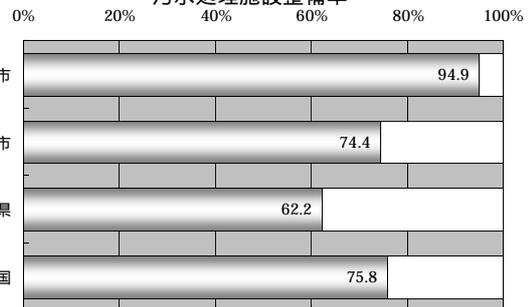
「犯罪」、「交通事故」で新潟県の平均を下回っています

新市の住民の「安全・安心できる暮らし」を支えていく力を「犯罪」、「交通事故」という住民生活を脅かす出来事からみると、新市の「犯罪」発生の度合いはとても低く、住民が安心して暮らせる環境にあります。また、「交通事故」の発生度合いは、全国平均、新潟県平均を下回っており、安全で安心した住民の暮らしを守る力、支える力があるといえます。

NPOによる環境への取り組み

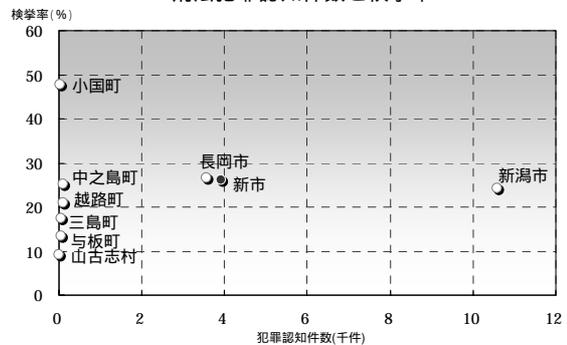


污水处理施設整備率



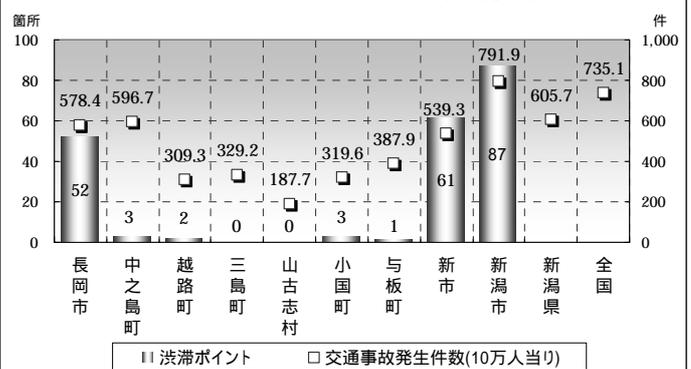
資料：平成 15 年版 新潟県統計データハンドブック
平成 14 年度 国土交通省、農水省、環境省提供
污水处理施設整備事業とは、下水道、農・林・漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、その他集合処理施設及び合併処理浄化槽の処理人口の割合

刑法犯罪認知件数と検挙率



資料：新潟県統計年鑑
平成 12 年 新潟県の犯罪（新潟県警察本部）

渋滞ポイント数と 10 万人当り交通事故件数



資料：国土交通省北陸地方整備局提供
交通年鑑（新潟県警察本部）

4. 新市の人を育てる力

**新市の人を育てる力：
地域の暮らしを大切にして
地域の中で広げる力**

地域の視点を最大限に活かしているから、継続力のある活動が着実に根付いています

地域に根ざした、住民主導の活動が特徴であり、強さです

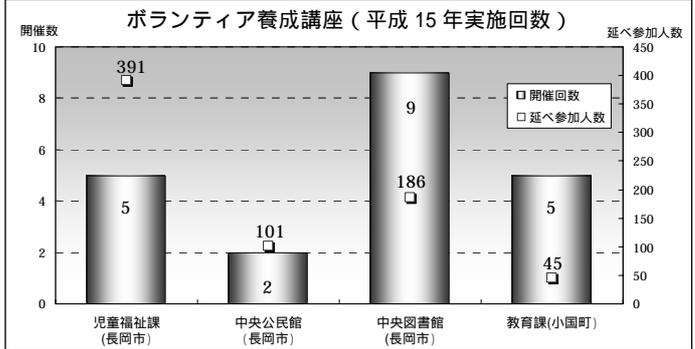
「咲かそう花を、育てよう緑を」をキャッチフレーズに、花と緑で住み良いまちづくりと心豊かな人材を育てる運動の輪は、年々広がっています。現在では、200もの市民ボランティアや緑化団体が公園や街路、また保育園、幼稚園、小・中学校、事業所の花壇に、約8万本の花を植えて管理しています。また、毎年5月には「花いっぱいフェア」も行っています。

住民自らが生涯教育を支え、人を育てることを重視しています

生涯教育を支える力となる、ボランティア養成講座の平成15年度実施回数は、長岡市、小国町において、計21回となっています。

行政出前講座を合わせると、年間で100回ものボランティア活動支援が行われています。新市では、こうした、住民視点の、地域に密着した活動が活発に行われています。

市民ボランティアによる「花いっぱい運動」



ボランティア養成講座の内容

市町村	主催	講座名
長岡市	児童福祉課	ファミリーサポートセンター会員養成講習会 サークルリーダー研修会
	中央公民館	ボランティア体験講座 紙芝居ボランティア講座
	中央図書館	読み聞かせボランティア養成講座
小国町	教育課	子育て支援ボランティア養成講座

行政出前講座の実施状況

市町村名	開始年度	平成15年実施回数	内容
長岡市	平成13	89	健康、子育て、生活、観光、産業、スポーツ、情報公開
小国町	平成12	10	伝統文化、福祉、くらしと下水道、パソコン

施設ボランティアの実施状況（平成15年度）

市町村	施設ボランティアの活用している施設と登録人数						合計人数	ボランティア養成講座	行政出前講座の実施回数
	公民館	図書館	体育館	博物館	青少年教育施設	その他			
長岡市	19	37			1	11	68	16	89
中之島町							0		
越路町	3						3		
三島町							0		
山古志村							0		
小国町		4					4	5	10
与板町							0		
新市	22	41	0	0	1	11	75	21	99

資料：長岡市・与板町合併協議会事務局調べ

5. 新市の交流する力

新市の交流する力：
豊かさと多様性の高い地域資源
交通利便性の高さによる拠点力

広域交通の利便性が高く、豊かで多様性の高い地域資源を最大限に活かせる環境があります

北陸において、新市は交通結節点、要衝としての位置づけが高い

関越道の長岡インターチェンジ、北陸道の中之島見附インターチェンジの出口取扱い台数は、他のインターチェンジと比較して高い状況にあります。

また、新市の各地域から高速道路インターチェンジへのアクセス時間をみると、約20分以内となっており、物流や観光活動などにおける、広域交通の利便性は高い状況にあります。

四季折々の自然景観から、多様性の高い観光活動を提供しています

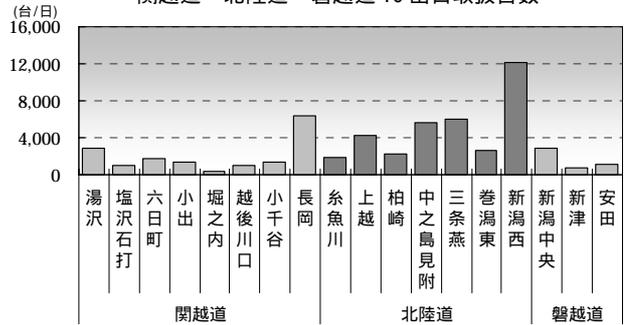
新市の観光入込み規模は、新潟市の約半分程度ですが、近年では県外の訪問客が急速に伸びている地域もみられるなど、さまざまな地域特性や資源を活かした多様な観光活動を提供しています。

四季折々に美しい景観美を見せる棚田の風景は、日本景観学界現地研修会会場にも選ばれるなど、学術的な評価も高いものです。

学術的にも貴重な「棚田の景観」

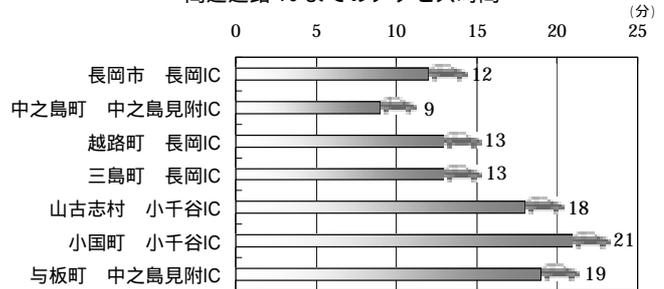


関越道・北陸道・磐越道 IC 出口取扱い台数



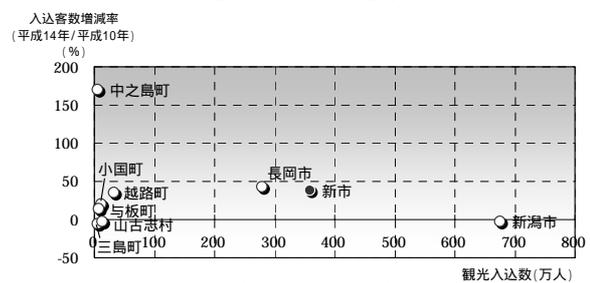
資料：平成15年 JH 新潟支社提供

高速道路 IC までのアクセス時間



資料：平成15年度 長岡地域振興計画

観光入込客数と観光客伸び率



県外観光入込客の推移

	県外観光客数(人)		増減率(%)	県外客割合(%)	
	平成10年	平成14年		平成10年	平成14年
長岡市	392,300	570,510	45.4	19.9	20.3
中之島町	360	4,930	1,269.4	1.4	7.3
越路町	111,340	75,780	31.9	46.7	23.5
三島町	9,410	9,120	3.1	16.1	16.5
山古志村	35,590	47,160	32.5	25.9	35.4
小国町	3,940	17,910	354.6	3.9	14.9
与板町	2,230	340	84.8	2.9	0.4
新市	555,170	725,750	30.7	21.3	20.2
新潟市	1,161,730	1,486,530	28.0	16.8	22.0
新潟県	32,329,750	29,791,590	7.9	41.2	39.5

資料：平成14年度 新潟県観光動態の概要

新市の交流する力：
人を育てる土壌と知恵を、
語り、伝えていく継続力

地域に伝わる知恵を語り伝えていく土壌は、世代間交流につながり地域に活力を育みます

地域に開かれた学校に代表される独自性の高い交流は、人を育てる土壌となっています

新市には、地域の人々が先生となり、自然や伝統文化などを教える総合学習を積極的に行っていく土壌があります。先人の知恵の重要性を理解し、次代を担う子どもたちへと継承していくことを大切にする心としくみが根付いているのです。

また、このような地域と学校が一体となった教育環境づくりは、世代間の交流も活発にしています。

新市では、他市町村からの流入は減少していますが、地域内の交流は増加傾向にあります

新市における通勤通学流動では、構成6町村から長岡市への通勤通学流入人数は増加する傾向にあり、地域内の交流が活発化していると推測されます。

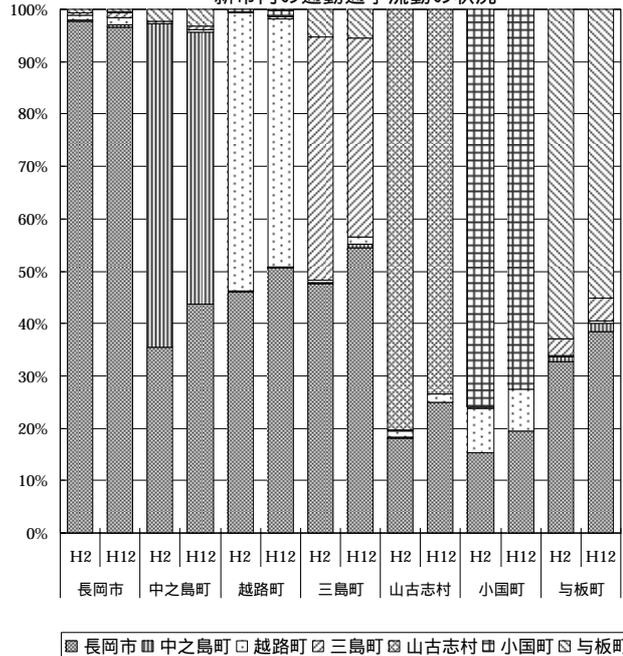
通勤通学圏域は、新市を構成する7市町村を越えて広がりを見せており、新潟県において、雇用や教育の受け皿としての位置づけの高さを表しています。

新市では、地域全体が一体になり、広域を対象とした、事業や整備を進めることができることから、地域交流は今後一層広がりを持つ可能性があります。

「地域に開かれた学校」は人を育てていく大切な財産

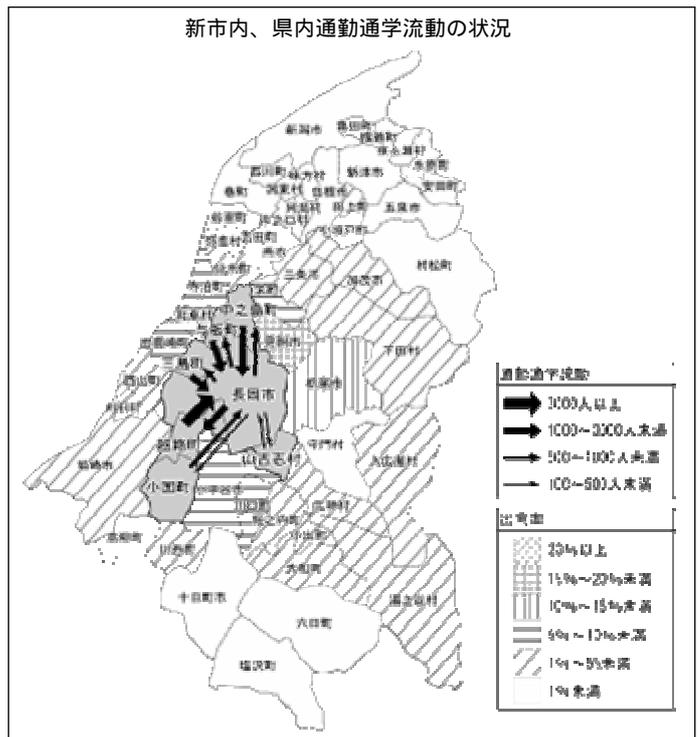


新市内の通勤通学流動の状況



資料：国勢調査

新市内、県内通勤通学流動の状況



資料：平成12年 国勢調査

**新市の交流する力
地域から、世界まで
新しい視点は新しい力を生む**

地域の人を育てる心とパワーが、生活圏の拡大に伴い、新しい次元へと向かっています

新市になりさらに国際交流の幅が広がります

長岡市における国際交流は、主に青少年を対象に、姉妹都市・友好都市交流であるアメリカフォートワース市、ドイツリアー市・バンベルク市との間で訪問・受け入れ事業を実施してきました。昭和62年にフォートワース市との交流を開始して以来、延べ3,700人の市民が行き来し、教育、文化、スポーツと幅広い分野で交流を続けてきました。今後は小国町の姉妹都市であるスイスロマンモティエ町との交流に加え、アジア諸国との交流も視野に入れて事業を展開します。また、新市における広域的な地域連携も深めながら受け入れ体制を整え、さらなる積極的な国際交流を推進します。

地域コミュニティの強さを活かした、全市的な活動への転換が期待されます

新市は、地域コミュニティの強さを持っていることもあり、市民活動の積極性が、NPOなどの活動に現れにくいという実態があります。地域間交流が高まり、地域社会が広域化している中で、地域密着型のコミュニティ活動を基盤とした新市の市民活動は、活動範囲も内容もさらに幅を広げていく可能性があります。

小国町と友好関係にある武蔵野市から寄贈された貴重な本を収蔵している小国町愛蔵書センター

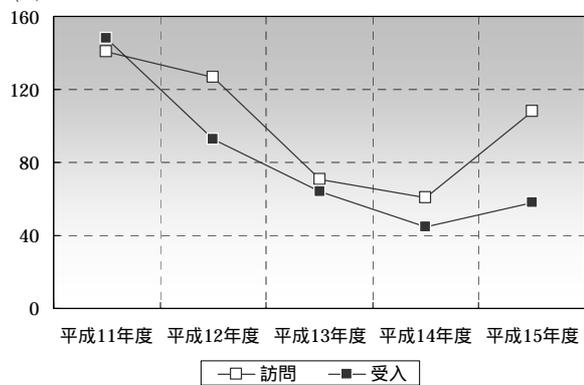


新市の「姉妹都市・友好都市」



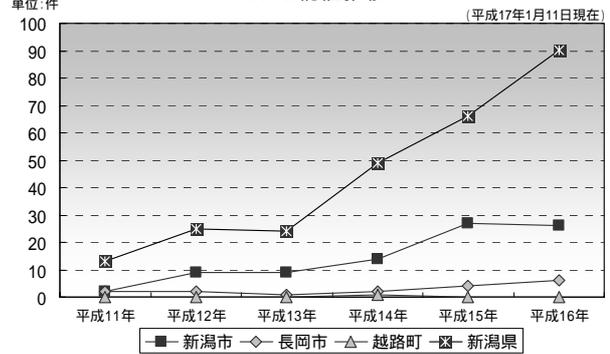
資料：長岡市・与板町合併協議会事務局調べ

姉妹都市・友好都市交流状況(訪問受入の推移)



資料：長岡市国際交流協会

NPO認証推移



資料：内閣府 NPO 関連ホームページ資料